









献
燈















佐藤

背戸土井 久代

橋本 香代子

平井 豊三

平井 敏美

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

平井 清光

水嶋 不二子

佐貫 太郎

佐貫 萌子

佐貫





告示

北野神社

納

北野神社
御朱印



鉦島神社

小松 貞子

東宮御降誕記念

東宮御降誕記念

鉦島神社



白井
村シ
一ゲ

楠本
隆茂

藤村
憲吉

辻
奥光

辻
いと

乾
社エ
吉ノ

大西
敏中

金野
ノブ

金野
音松

金野
ヨネ

楠本
松太郎





由緒

阿迦留姫命と住吉大神を祀る創建年代は不明。豊臣秀吉の時代に一時は住吉神社と称したが明和三年に社名を元に戻す。祭神阿迦留姫は『古事記』によると「赤い玉より生まれた美人で新羅の王子、天之日矛と結婚、常に美食を用意して仕えたが、高慢な夫の態度に耐えきれず、難波に逃げ帰った」とある。また『摂津国風土記』逸文には「新羅の女神が夫のもとを逃れ、筑紫の国の伊波比の比売島(大分県姫島)に暫くいたが、ここは新羅から近いので、さうと夫が追いかけてくるにちがいないと摂津の国に移り住んだ。そしてもといた島の名をとって比売島と名付けた」とある。姫島は難波八十島の一つで阿迦留姫が留まった比売島が、この地にあたると伝えられてきた。古老の話によるとヒメが訛子でヒエ(稗)島と呼ばれ、ヘジマと発音していたという。また、この地は木綿織がさかんな女性性、三巾前掛をしてよく働いたという。この機織の技術や前掛は阿迦留姫が広めたといえられている。ただし大阪で木綿の栽培が始まったのは戦国時代といわれ、史実と異なるが、このような伝承が残っているのも阿迦留姫命とこの地の産土神として、人々が大切に祀ってきたからであろう。境内には、姫島の地に関する万葉歌碑がある。

妹が名は千代に流れん姫島の小松が末に苔むすまでに
妹は、この地で亡くなった乙女を作者が親しみ、こめて表した
もので、あなたの名はいつまでも世に語り伝えられるであろう
と詠んだ。

社務所・大鳥居御造営奉賛のお願い

当神社の社務所は、阪神淡路大震災によって、屋根瓦が落ち、柱が傾くなど甚大な被害を受けました。その後、仮り葺きのトタン屋根は傷み、傾きもより大きなものとなっております。また、木製の大鳥居は、柱の内部の腐食が進行し、倒壊の恐れもあり、去る六月三日、神事齋行ののち解体、撤去いたしました。そこで、神社関係者と相談し、社務所・大鳥居の御造営をいたすことになりました。つきましては、氏子崇敬者の皆様のご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

総工費 八千萬元
浄財募金額 四千三百萬元

着工予定 平成二十七年八月
受付期間 平成二十六年七月から平成二十八年三月
受付場所 姫嶋神社社務所（〇六一六四七一五二三〇）
一口、一萬元より 社務所内の芳名板に記名。
百口、百萬元以上 鳥居の柱に御芳名を記す。

※分納をご希望の場合はお申し出下さい。
※ご奉納は金額にかかわらずお受けいたします。

姫嶋神社 宮司 鈴木孝季

十月十一月 (七五七一五二三〇)

